

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

東綾瀬中学校 校長 渡邊 英晴

1 学校教育目標

- ① 自ら学び、すすんで努力する生徒
- ② 他を思いやり、礼儀正しい生徒
- ③ 正しい判断力を持ち、心身ともに健康な生徒

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館で1クラスが学習するスペースの確保。
- ② 授業で活用する手立てや方法の周知。ICTと関連した学習の工夫。
- ③ 図書館に行かない、本を借りたことがない生徒の図書館活用に対する意欲の向上。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ① 図書司書との連携を推進し、充実した図書館運営を行う。
- ② 図書館の環境整備をする。
- ③ 読書に親しむ。
- ④ 新校舎図書館の準備。

4 今年度の重点的な取組

- ① 学習や行事等必要な資料を準備する。
- ② 教職員の授業研究などに役立つ資料・活用の推進をする。
- ③ 授業時の活用。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	③俳句を味わう / 「私の一冊」を探しにいこう / 情報の信頼性 ①②漢字辞典③俳句
理科	②生物の特徴と分類
技術	①②③材料の強さ、性質 / 電気と安全
家庭	①②③郷土料理
社会	③新聞コンクール・大正デモクラシー
総合	① 魚沼 ②東京・鎌倉 ③修学旅行・京都奈良

実践の評価

図書館司書へ図書資料の準備をしてもらい教室で授業を展開するなど、図書館外でも図書資料、ICT 機器を用いて学習に取り組むことができた。また、国語では課題解決のために、図書館内の資料を自由に探して調べられる授業を行ったり、社会では新聞記事を活用した学習を行ったりと、図書館内での授業にとどまらず、各教室や別の場所でも図書館を活用して学習を展開することができた。今後も授業での図書館利用の機会を増やし、「学習センター」「情報センター」としての役割を増やせるように心がける。

6 図書館運営計画	
(1) 日常的な取り組み	
読書時間の確保（週 5 回）・読む本は図書館から借りる。または、各自で用意する。	
(2) 主な行事等の取り組み	
調べる学習コンクール・POP ポスター掲示・読書週間年 2 回・夏休み、冬休み貸出	
(3) 図書委員会などの取り組み	
学級文庫・新聞記事の紹介・本の紹介年 2 回 POP/ポスターの掲示・昼休みの貸し出し返却作業	
(4) 環境整備の取り組み	
電算化更新等に適切に対処できる校内レイアウトの再考・館内整備、新校舎図書館整備計画。 ・ボランティアさんによる装飾・作業準備	
(5) 司書・外部との連携	
(ア) 学習で必要な本を迅速に取り寄せる。 (イ) 電子図書館利用サービス（中央図書館） (ウ) ボランティア活動の連携	
実践の評価	
新校舎への移転に伴い、図書館も館内レイアウトや蔵書の整備など大幅にリニューアルを行った。また図書ボランティアと連携して季節に合わせた展示を行い、「居心地の良い図書館」をめざして活動することができた。また、司書と連携して「調べる学習コンクール」にむけて生徒を対象にしたガイダンスを行ったり、図書委員会を中心に昼休みの図書の貸し出し、返却作業や POP づくりを行ったりするなど積極的に活動することができた。	

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合 50%	国語、社会、音楽、体育の授業で活用することができたが、50%には満たなかった。
②	F E T（総合的な学習の時間）を利用し、自ら探求した課題に応じ、本から新聞 I C T 機器を探究活動や発表の授業を年 5 回以上実施する。	年 5 回以上実施	達成することが出来た。
③	休み時間や放課後の時間等主体的に学校図書館を活用して読書ができる。使い分け、探求活動を進め効果的に表現することができる。	生徒 1 人あたりの年間貸出冊数前年度比 5%増	新校舎への移転のための閉館期間などもあり、達成出来なかった。

8 学校図書館全体に関する自己評価
今年度は仮校舎から新校舎への移転があり、図書館も館内レイアウトの再構築や蔵書の管理など図書館司書と連携して行うことができた。新しい図書館が居心地の良い場所となるように整備を進める中で、昼休みには連日 100 人近くの生徒が来館するなど、生徒にとっても興味をひかれる場所となっている。一方で一度も図書館を利用したことがない生徒や読書に抵抗感をもっている生徒も少なくない。今後は、昼休みや放課後の図書館開放だけではなく、授業でも活用機会を増やし、学校図書館が生徒にとって、もっと身近な場所となるよう取り組み、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を果たしていく。